

周産期医療の現場における子育てハイリスク群の実態

—— 妊婦健康診査未受診妊産婦を中心として ——

笹倉千佳弘 (就実短期大学), 井上寿美 (関西福祉大学)

Realities of Parenting High Risk Group in the Field of Perinatal Medicine

Chikahiro SASAKURA (Shujitsu Junior College)
Hisami INOUE (Kansai University of Social Welfare)

抄 録

本研究の目的は、子育て支援の資源を利用する意思や能力が乏しい親に対する周産期医療を組み込んだ支援ネットワークの実践モデルを構築するために、妊婦健康診査未受診妊産婦に焦点をあててその実態を明らかにすることにある。今回の助産師への聞き取り調査では、妊婦健康診査未受診妊産婦には、「自分の意思というものが無い」タイプと「壊滅的にだらし無い」タイプという2タイプが見出された。前者は、多くの女性にとって大切なライフイベントとなる妊娠や出産においてさえ、「自分の意思というものが無い」タイプである。後者は、公的な場所であっても傍若無人に振る舞う、約束の不履行に対して無頓着であるなど、心身ともに「壊滅的にだらし無い」タイプである。以上から、子育て支援の資源を利用する意思や能力が乏しい親に対する支援ネットワークの実践モデルを構築するには、親の存在を前提としない枠組みの創出が必要であると考えられる。

キーワード：周産期医療，子育て支援，妊婦健康診査未受診妊産婦